

鉄骨工事 Q&A	溶融亜鉛めっき	JIS改正	制定	2024年7月1日
			改訂	

Q. 溶融亜鉛めっきの記号が変わったのはなぜですか？

A.

2021年12月にJIS H 8641「溶融亜鉛めっき」、JIS H 0401「溶融亜鉛めっき試験方法」が改正され、めっき皮膜の規定が付着量から膜厚になり、それに伴いめっきの種類記号も下表のように変わりました。

改正後JIS(膜厚)		改正前JIS(付着量)		
種類の記号	膜厚(μm)	種類	記号	付着量(g/m ²)
HDZT 35	35以上	1種A	HDZ A	250以上※
HDZT 42	42以上	1種B	HDZ B	300以上※
HDZT 49	49以上	2種35	HDZ 35	350以上
HDZT 56	56以上	2種40	HDZ 40	400以上
HDZT 63	63以上	2種45	HDZ 45	450以上
HDZT 70	70以上	2種50	HDZ 50	500以上
HDZT 77	77以上	2種55	HDZ 55	550以上

※: 平均膜厚に、めっき皮膜の密度を7.2g/cm³としてこれに乗じた値を示す。

改正前は、付着量試験により付着量を測定していましたが(受渡当事者間協定で膜厚からの換算も許容)、JISの対応国際規格(ISO1461:2009)では膜厚計で測定する方法を主としていることや、現在では膜厚計の測定精度は十分信頼でき、使用方法も簡便であることから、膜厚の方法に変更されました。

表面処理に溶融亜鉛めっきを行っている製品には、建築用ターンバックル(JIS A 5540)、建築用ターンバックル胴(JIS A 5541)、構造用両ねじアンカーボルトセット(JIS B 1220)、溶融亜鉛めっき高力ボルト(国土交通大臣認定品)があります。

いずれのJISも改正が公示され、各メーカーのJIS認証の切り替えは完了しています。一方、溶融亜鉛めっき高力ボルトは、国土交通大臣認定品なので、認定取得時の各種条件を維持する必要がありますので、当面は付着量表示になります。

参考:(一社)日本溶融亜鉛鍍金協会H. P.